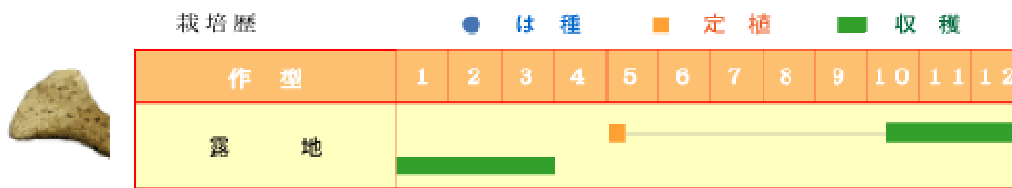


やまのいも



栽培ポイント

- (1)肥沃で作土が深いほ場が適しています。
- (2)植付け 夏期の干ばつの時のかん水がポイントです。
- (3)輪作を行い、ネコブセンチュウの被害を防止しましょう。

品種・播種

品種 いちよういも(中首系)
種芋重 10平方メートルあたり4kg

ほ場準備

■ 種芋準備

種苗店で収量が多く、形状の良い系統を購入します。前年収穫した芋を種芋として利用することもできます。首の断面が丸く、尻部がバチ形に張り肉厚で、病気やセンチュウの被害がないものを利用しましょう。2~3月の植付前に、首50g、胴60g、尻70gを目安に切断し、腐敗しないよう殺菌剤で種芋消毒した後、陰干しして、部位別に分け保冷庫に貯蔵します。

■ 深耕

イモが末端まで良く肥大するためには、下層まで膨軟であることが必要であるため、スコップ等で素掘りを行いましょう。

ネコブセンチュウ防除

ネコブセンチュウ害の防除のため、植付前に粒状タイプの殺センチュウ剤を土壤に混ぜておきます。

■ 土づくり

堆肥、土壤改良資材を施用したのち、管理機等で耕耘します。

堆肥	30kg/10平方メートル
苦土石灰	1kg/10平方メートル
BM熔燐	0.6kg/10平方メートル

定植

■ 定植時期

4月~5月

■ 定植

畦幅70cm×株間21cmに植え、発芽を揃えるため種芋は部位別に植えましょう。

定植後の管理

■ 基肥・培土

植え付け後、管理機で培土します。萌芽しはじめたら畦間に基肥を施します。

IB化成S1号 0.8kg/10平方メートル 又は

有機A801 1kg/10平方メートル 又は
有機アグレット大和芋専用 1.4kg/10平方メートル

■ 除草剤

培土後15日以内に処理する。

■ かん水

7月以降の高温乾燥期には、かん水します。かん水量は20mmを目安とし、乾燥する年は5～7日間隔で行います。


■ 追肥

追肥の時期は1回目が7月上旬、2回目は昼夜の温度差が増す8月中旬頃が適期です。

窒素、燐酸、加里の吸収量は、ヤマトイモの生育が盛んになる7月中旬から増加し、9月中旬でピークになります。そのため、追肥は特に栄養生長から生殖生長に変わる8月中旬頃までが重要になります。

1回目:大粒ジシアン有機800 9kg/10平方メートル

2回目:大和芋追肥大粒505 1kg/10平方メートル

 主な病害虫と防除対策

■ 褐色根腐れ病

健全な種芋を用いて、種芋は植付前に殺菌剤で処理をします。また、植え付け前に土壤消毒を行いましょ。発病の甚だしいほ場では1～2年作付けしないようにしましょう。

■ センチュウ類

健全な種芋を用い、土壤消毒を行います。ギニアグラス、エン麦等と輪作をするなどし、密度を下げることも有効です。

■ ハダニ類、葉渋病

梅雨明け頃から適用薬剤を数回散布します。

 収穫

茎葉が枯死する10月下旬から3月下旬まで随時収穫することが出来ます。貯蔵する場合はポリ袋に入れ、保冷庫内で3～4℃に保持します。貯蔵して翌年の種芋として利用することもできます。